

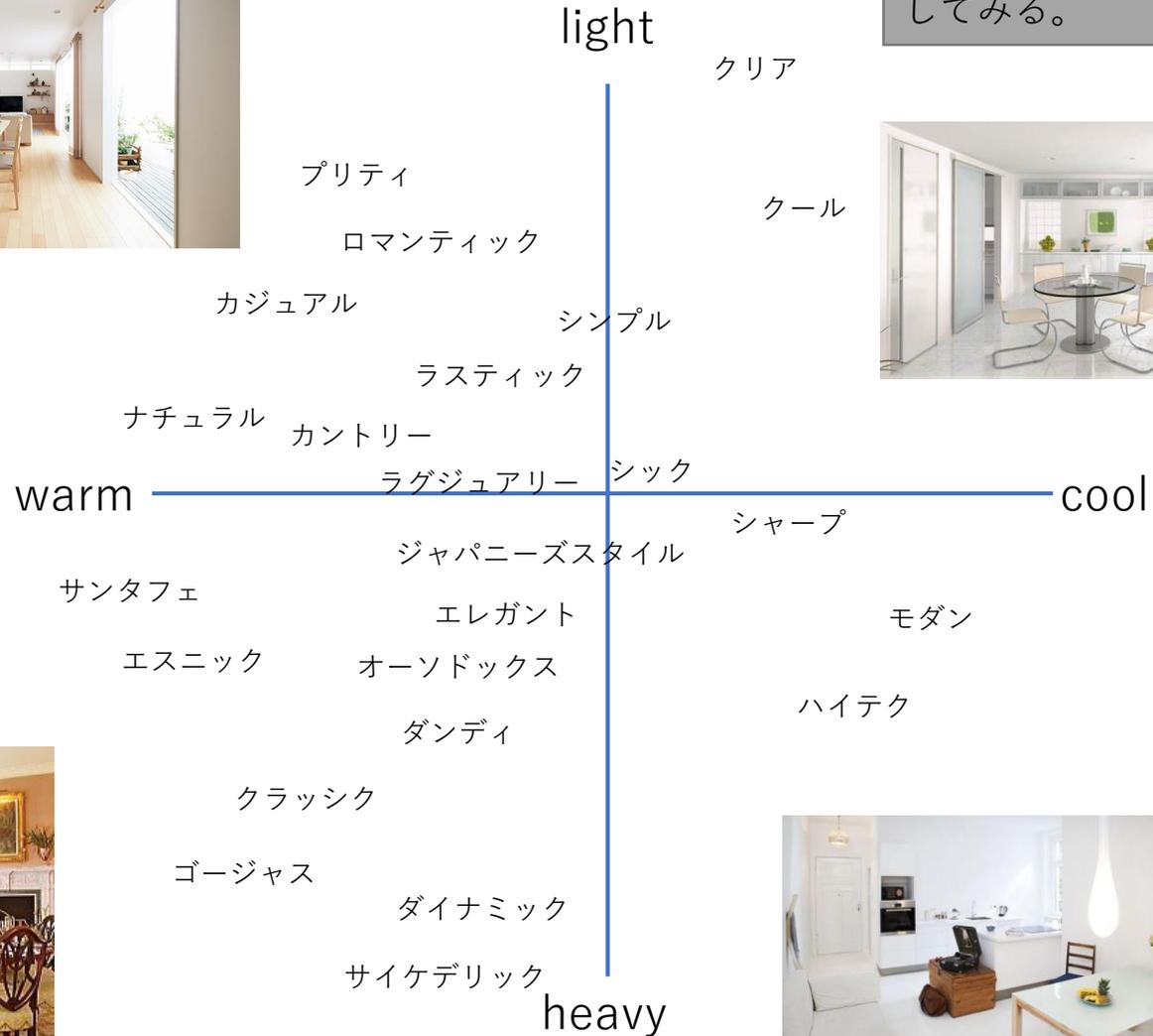
# インテリアスタイリング

## STEP 1

はじめにイメージありき。

<イメージスケール>

4つの相反するイメージをスケール上に設定し、その中にインテリアテーストを位置付ける。  
その中に自分がしたいテーストの確認を試みる。



# インテリアスタイリング

## STEP 2

「スタイル」を決める。



ナチュラルなインテリア



無垢のフローリング



例えばイメージを「ナチュラル」と決めた場合、床、壁、天井のマテリアルから 家具、照明、カーテンの色や素材 そして最後の仕上げの小物までしっかりとイメージを合わせることが大切です。

# インテリアスタイリング

## STEP 3

### 色彩計画をたてる。

カラースキームの順番は、先ずは 床、壁、天井の ベースカラーを選び、次に家具やアクセントラグといったアソートカラーを選びます。そこまでは基本、低明度、低彩度の落ち着いた色を選ぶことが多いです。最後にアクセントカラーで全体のバランスを取って 強調色などでしめます。



マンセル色相環



トーンを表

明度



彩度



# インテリアスタイリング

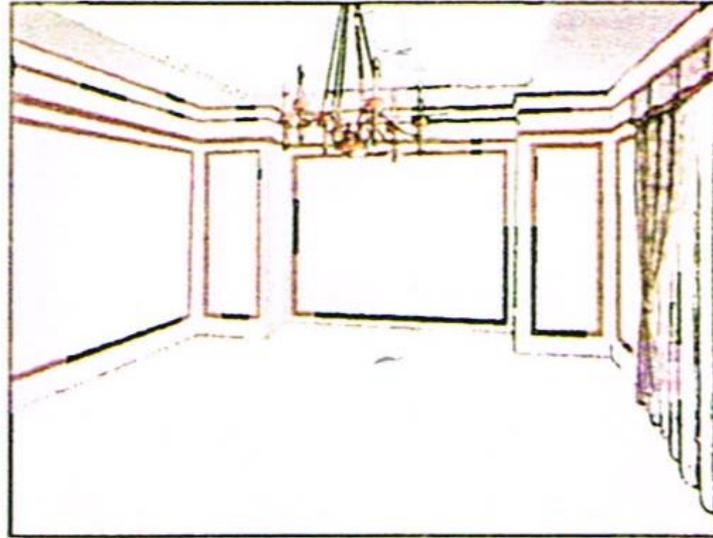
## STEP 4

「3つのエレメント」で考える。

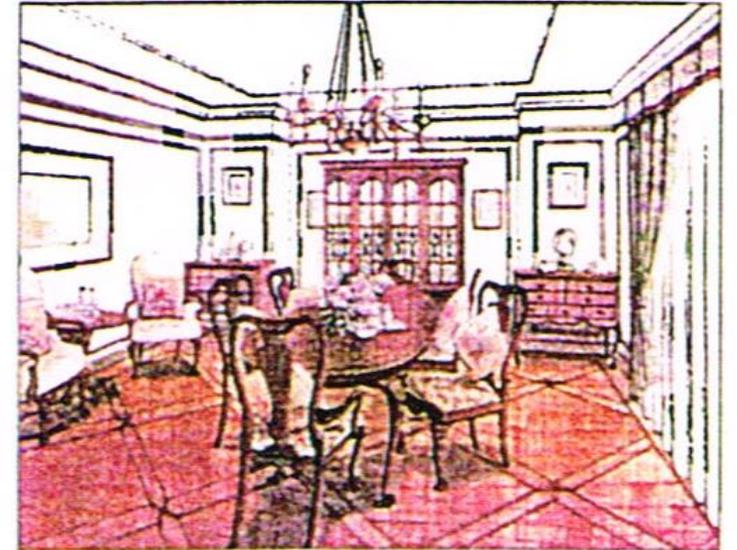
空間を美しく見せる為には、3つの要素のバランスが大切です。  
ウインドートリートメントによって天井を高く見せたり 家具の配置で空間の広さが違って見えます。又、間接証明などの演出も効果的です。



空間(スペース)エレメント



固定(フィックス)エレメント

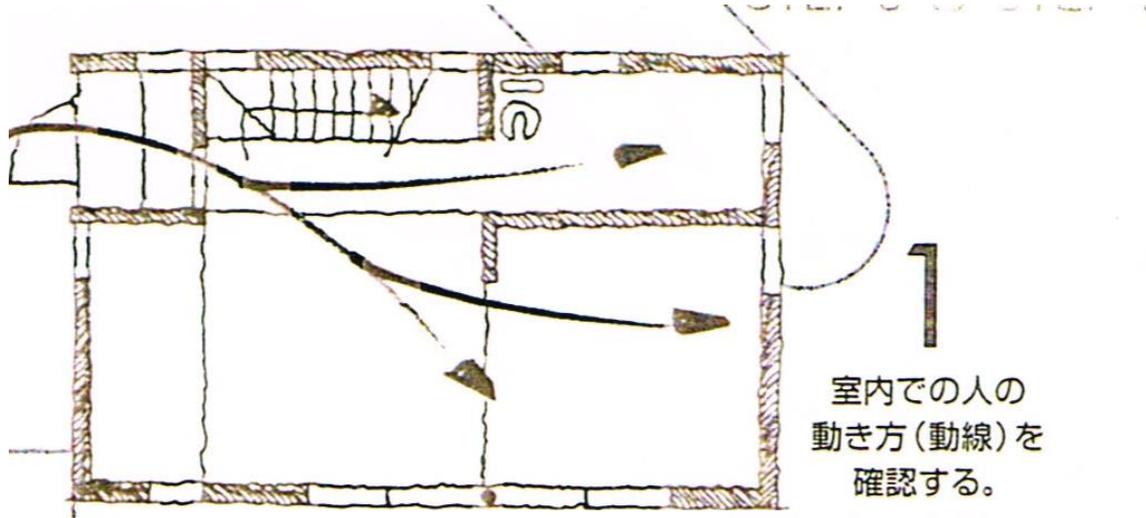


可動(ファニシング)エレメント

# インテリアスタイリング

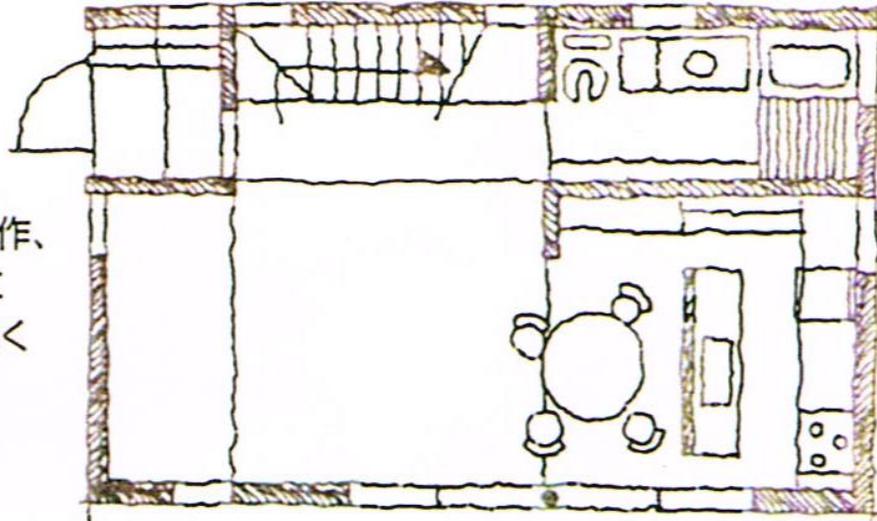
## STEP 5

### 配置を考える。



室内での人の  
動き方(動線)を  
確認する。

2  
家具を開口部や造作、  
設備への動線に  
矛盾せず、無理なく  
機能するよう  
レイアウトする。

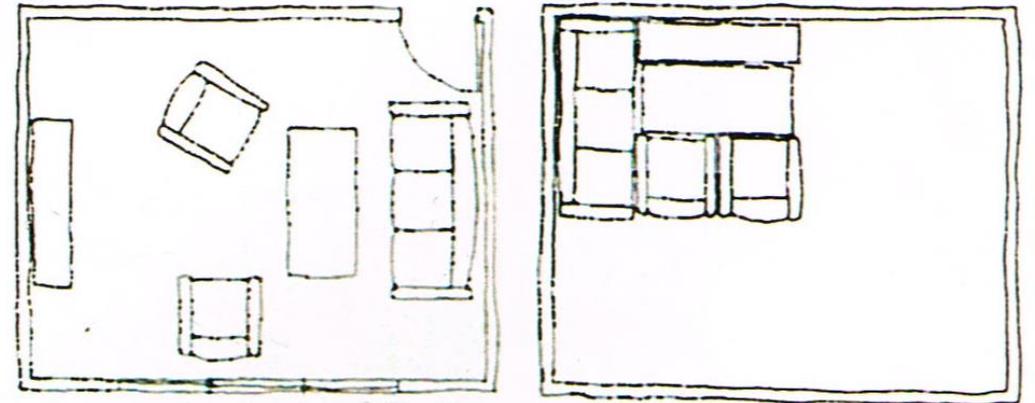


理想的な家具の空間に対する比率は  
30~40%とされています。

実際には 難しいですが、基本は無駄なものを  
置かない。

そして動線を確保しながら エリア (シーン) を  
まとめることです。

家具の占める割合



家具の量が30%以内

# インテリアスタイリング

家具を生かすも殺すも、照明計画次第である。

## STEP 6

### 家具や照明を選ぶ。



ベッドヘッドのコーブ照明とブラケット照明。



家具の下にコーニス照明を仕込む。



意匠的なフロアランプをソファの横に置く。



壁にコーニス照明を取り付けてお洒落なトイレに変身。



ダウンライトと縦に入れた間接照明で非日常感を出す。



スポットとフロアスタンドでアップパーとダウン照明を演出する。



足元のスタンドで光で遊ぶ。

# インテリアスタイリング

## STEP 7

### ウィンドートリートメントを選ぶ。

イメージに合わせてスタイルを決め  
飽きの来ないシンプル且つオリジナルな  
スタイルで 自分らしさを表現する。



ドレープ&レース



スワッグバランス



プレーンシェード



タスキ掛け間仕切り

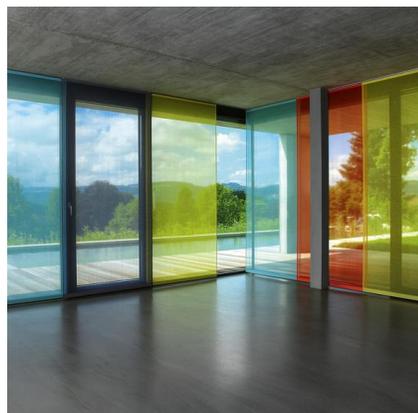


プリーツスクリーン

バーチカルブラインド



パネルカーテン



ウッドブラインド



ロールスクリーン



組紐タッセル



# インテリアスタイリング

## STEP 8

### アクセサリで仕上げる。

ミックス型テストとして あえてイメージの異なる小物をアクセントに入れても面白い。特に和テイストの物は、どのようなインテリアにも上手く馴染む。

